令和5年度セグメントシート (国立科学博物館)

セグメント名	調査研究事業			担当部局庁	文化庁	作成責任者			
事業開始年度	平成13年度	事業終了 (予定)年度	終了予定なし	担当課室	企画調整課	企画調整課長 寺本恒昌			
会計区分	一般会計								
セグメント単位の考え方	財務諸表のとおり								
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	独立行政法人通則法第46条			関係する 計画、通知等	第3期 教育振興基本計画(平成30年6月15日閣議決定) 第6期 科学技術・イノベーション基本計画(令和3年3月26日閣議決定) 第1期 文化芸術推進基本計画(平成30年3月6日閣議決定)				
				主要経費	科学技術振興費				
事業の目的 (5行程度以内)	博物館を設置して、自然史に関する科学その他の自然科学及びその応用に関する調査及び研究並びにこれらに関する資料の収集、保管(育成を含む。)及び公衆への供覧等を行うことにより、自然科学及び社会教育の振興を図ることを目的とする。								
現状・課題 (5行程度以内)	国立科学博物館では、自然科学と人文科学を融合させて新たな研究の可能性を探るとともに、国立科学博物館が持つ自然史及び科学技術史分野に関する専門性の高い研究人材や今まで培った専門人材養成のノウハウ、アジア最大級の標本・資料コレクションを有するという「強み」を生かした事業を展開する。それを実現するためには、増大する標本・資料の管理・活用に対するコレクションのマネジメント体制の充実、及び狭隘化が進む収蔵スペースの確保等が課題として挙げられる。また、地球環境の変化に対し、人々が自然及び科学に関する知識と科学的な考え方・態度で適切に判断し行動できる総合的な能力である科学リテラシーの涵養が不可欠となっている。								
事業概要 (5行程度以内)	地球と生命の歴史、科学技術の歴史の解明を通じた、社会的有用性の高い自然史体系・科学技術史体系の構築を目指す調査研究を実施する。								
事業概要URL	https://www.mext.go.jp/a_menu/hyouka/1399877.htm								
予算額・ 執行額 (単位:百万円)	経常 収益	予算額	当初予算: 運営費交付金(A)	851	896	840	884	-	
			補正予算: 運営費交付金(B)				-	-	
							-		
							-		
							-		
		執行額	運営費交付金(C)	990	858	841			
			補助金等(D)	2	2	1			
			その他(E)	327	369	468			
			計(F) =(C)+(D)+(E)	1,319	1,229	1,310			
				運営費交付金収益の割合 =(C)/(F)	75.1%	69.8%	64.2%		
				運営費交付金収益化基準	業務達成基準	業務達成基準	業務達成基準		
経常 費用	予算額(G)	981	968	932					
	執行額(H)	1,311	1,229	1,306					
	執行率(I) =(G)/(H)	134%	127%	140%					
令和5・6年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算項・目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)				
	(項)	独立行政法人国立科学博物館運営費交付金に必要な経費			-				
	(目)	独立行政法人国立科学博物館運営費交付金	884						
		その他							
		計(A)	884	-					

活動内容① (アクティビティ)	自然史・科学技術史の中核的研究機関としての研究の推進・研究活動の積極的な情報発信・国際的な共同研究・交流									
↓										
活動目標及び活動実績 ① (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込	
	5年間を通して年平均300件の執筆を行う	論文等執筆状況	活動実績	件	-	456	445	-	-	
			当初見込み	件	-	300	300	300	300	
↓	成果目標①-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	独立行政法人国立科学博物館が達成すべき業務運営に関する目標(中期目標)を定め、独立行政法人通則法に基づき主務大臣が業務実績評価を行っている。ナショナルコレクションの構築及び全国的な標本・資料情報の収集と活用促進についてもこの目標に定めており、年度終了時、中期目標期間終了時に評価されるものであることから、毎年度、一定以上の評価を受けることは短期的に正しい成果が得られていると判断できると考えられるため。								
成果目標及び成果実績 ①-1 (短期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 7年度		
	独立行政法人通則法に基づく主務大臣による業務実績の評価について、自然史及び科学技術史の調査・研究に係る項目で標準評価以上の評価を受ける。	文部科学大臣決定に基づく評価基準(大項目におけるB評価以上の割合) 中間目標の期間(令和3年度～令和7年度)	成果実績	%	100	100	-	-		
			目標値	%	100	100	100	100		
			達成度	%	100	100	-	-		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績	独立行政法人国立科学博物館の令和4年度における業務の実績に関する評価(文部科学大臣)									
↓	成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)	中期目標・中期計画において定めた計画に沿った事業が行われたかについて、中期目標期間実績評価における評価実績をもとに判断する。								
成果目標及び成果実績 ①-3 (長期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 7年度		
	独立行政法人通則法に基づく主務大臣による第5期中期目標期間実績評価のうち、自然史及び科学技術史の調査・研究に係る項目で、標準評価以上の評価を受ける。	文部科学大臣決定に基づく評価基準(大項目におけるB評価以上の割合) 中間目標の期間(令和3年度～令和7年度)	成果実績	%	-	-	-	-		
			目標値	%	-	-	-	100		
			達成度	%	-	-	-	-		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績	独立行政法人国立科学博物館の第5期中期目標期間における業務の実績に関する評価(文部科学大臣)									
アウトカム設定について の説明	アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由									
	アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由									

アクティビティから長期アウトカムについて6つ以上記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載								チェック		
独法所管部局による点検・改善										
点検結果	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティ①については、活動実績は各年度当初見込を達成している。また、短期の測定指標は順調に推移している。 ・契約に際しては、やむを得ないものを除き、一般競争により契約者を決定しており、支出先の選定の妥当性や競争性を確保するとともにコストの削減に努めている。 						目標年度における効果測定に関する評価(令和8年度)			
	改善の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティ①については、来年度以降も当初見込みを上回るよう引き続き取り組む。 ・真にやむを得ないものを除き、一般競争入札等による競争性の確保を促進するとともに、契約に当たっては、競争参加条件等や仕様書の見直し、適切な公告期間の確保等により競争性、公平性、透明性を引き続き確保する。 								
備考										
-										

文化庁
2,546百万円
(交付金)

事業概要

自然史及び科学技術史の中核的研究機関として、また我が国の主導的な博物館として調査・研究、標本・資料の収集・保管・活用、展示・学習支援活動を通じ、人々が、地球規模課題を含む地球や生命、科学技術に対する認識を深め、地球と人類の望ましい関係について考察することに貢献する。

〔交付〕

(A) (独)国立科学博物館
3,528百万円
(総事業費)

※国費投入額と総事業費との差額は、自己収入等である。

【一般競争入札
(最低価格)等】

(B) 調査研究事業
民間企業等
(282社)

※経常費用の執行額には損益計算上の費用が入っているため、(B)の金額とは一致しない。

1,216百万円

事業概要

地球と生命の歴史、科学技術の歴史など、自然史・科学技術史に関する調査研究を実施するとともに、研究によって価値付けられた標本資料を適切に保管し、将来へ継承する。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位：百万円)